

# 文章題テスト・小説(3)

日 月 名 前

★次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ジャンボの家には、タッチやハマちゃんもアツま<sup>ア</sup>っていた。みんなでゲームをしながら、おしゃべりのワダイ<sup>イ</sup>は自然<sup>しぜん</sup>と、四月のクラス替え<sup>が</sup>のことになった。

いまは一月の終わり——あと二カ月で、四年生が終わる。五年生に進級<sup>ウ</sup>するときにクラス替えがあるので、ぼくたちが同級生でいられるのもあとちょっとだ。

「四人そろって同じクラスって、やっぱり、無理<sup>む</sup>だよなあ……」

ジャンボが言うと、ハマちゃんも「四年一組、最強<sup>さい</sup>だったのになあ」と寂<sup>さび</sup>しそうにならずいた。

「でも、クラス違<sup>ちが</sup>ってても、オレたちずっと友だちだよな！」

タッチがガッツポーズをつくって、ぼくの肩<sup>かた</sup>をポンとたたいた。

「なっ? ツヨシ」

「……うん」

<sup>2</sup>しよんぼりとうなずくぼくを見て、タッチは「なんだよ、ツヨシ、もう落ち<sup>こ</sup>込んでんのかあ?」と笑<sup>わら</sup>った。「だいじょうぶだいじょうぶ、授業<sup>じゅぎょう</sup>中は別<sup>べつ</sup>のクラスでも、休み時間に廊下<sup>ろうか</sup>に出たら、いつでも遊<sup>エ</sup>べるんだから」

「……うん」

「どうしたんだよ、ツヨシ、さっきから元気ないなあ」

元気なんて出るわけない。頭<sup>3</sup>の中はマコトのことですばいだ。

タッチたちには、まだ転校のはなしはしていない。べつに「ナイショだよ」とマコトに言われたわけじゃなかったけど、友だちにしゃべると、転校のことが「ほんとにほんとの、ほんとのこと」になってしまいそうな気がして……。みんなのおしゃべりは、今度は「女子の誰<sup>だれ</sup>と同じクラスになりたいか」に



なった。

「オレ、マコトは同じクラスでもいいかなあ」とジャンボが言った。

タッチやハマちゃんも、うんうん、とうなずいた。

「あいつがいるとスポーツ大会とか優勝しそーだし」「オレたちが六年生にい

じめられてもタス<sup>オ</sup>けてくれそーだし」「コワそうな先生が担任になっても、マ

コトがいたらだいじょうぶだよな」……。

4 みんなのはなしを聞いていると、急に胸<sup>むね</sup>が熱<sup>あつ</sup>くなって、泣<sup>な</sup>きそうになって

しまった。

(重松 清「くちぶえ番長」による)

1 線ア～オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア音は「シュウ」。集合、集中など。

ア 集(ま<sup>っ</sup>て)

イ「話」の訓は「はなし」「はなす」。「題」は音のみの漢字。

イ 話<sup>わ</sup>題

ウ しんきゅう

ウ「進」の訓は「すすむ」「すすめる」。「級」は音のみの漢字。

エ あそ(べ<sup>る</sup>)

オ 助(け<sup>て</sup>)

エ音は「ユウ」。回遊、遊具など。

オ音は「ジョ」。助手、助言など。

2 線1「四人そろって」とありますが、四人の名前をそれぞれ文中からさがして

書きぬきなさい。

ジャンボ

タッチ

(順不同)

「四人」とは、集まっておしゃべり  
をしているメンバーのこと。

「ぼく」の名前は「ツヨシ」。

ハマちゃん

ツヨシ

3 線2「しょんぼりとうなずくぼくを見て、タッチは『なんだよ、ツヨシ、もう

落ち込んでんのかあ?』と笑った」とありますが、タッチは、「ぼく」がどのような  
ことを心配して「落ち込んで」いると思ったのですか。もっともふさわしいものを、  
ア～エから選<sup>えら</sup>んで、記号に○をつけなさい。

ア 「最強」のクラスがなくなってしまうこと。

イ またみんなと同じクラスになること。

ウ みんなと別のクラスになること。

直後の「だいじょうぶ…別のクラスでも…いつでも遊べる  
んだから」というはげましのことがヒントになる。

エ コワそうな先生が担任になること。



4 線3「マコトのこと」とは、どのようなことですか。次の□に当てはまることばを、文中から書きぬきなさい。

マコトが、五年生に進級する前に

転校

してしまうということ。

直後の三行から、「ぼく」が、マコトの口から転校の話が聞かされて、なやんでいることがわかる。

5 この文章から、「マコト」はどのような女の子だということが読みとれますか。もっともふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア おとなしくて、やさしい女の子

イ 自分勝手に、わがままな女の子

ウ 落ち着いていて、頭のいい女の子

エ 活発で、たよりになる女の子

みんなが話す内ようから、マコトについてまとめよう。スポーツがとくいで、六年生や先生にも負けない、たよりになる人気者の「マコト」がうかびあがってくる。

6 線4「みんなのはなしを聞いていると、急に胸が熱くなって、泣きそうになってしまった」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちを次のように説明するとき、□に当てはまるもっともふさわしいことばを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

今までのマコトとの思い出がよみがえり、もう会えなくなるかもしれないと考えて、どうしようもなく□になっている。

ア かなしい気持ち

友だちにしゃべると、マコトの転校が「ほんとのこと」になってしまいそうで話せずにいることから、「ぼく」はマコトとわかれたくないのである。

イ なつかしい気持ち

ウ うれしい気持ち

エ はずかしい気持ち

